

伊東自然歴史案内人会は

「伊東市八幡野地区におけるメガソーラー建設工事に反対です」

その理由を以下に述べる

1. 工事概要

伊東市八幡野地区に100ha以上の敷地の約半分の森林を伐採し、12万枚にも及ぶソーラーパネルを設置するものである。

2. 懸念される問題点

イ) 自然環境への影響

- ・広大な森林に太陽光パネルを設置することによるヒートアイランド現象発生
- ・動植物に深刻な影響
- ・サル、イノシシ、シカなどが人里へ侵入
- ・伐採により、保水力が弱体化し下流部において鉄砲水等大規模災害をもたらす
- ・大量の泥水や、除草剤散布による、海洋生態系への悪影響

ロ) 生活環境への影響

- ・太陽光パネルの輻射熱が気温上昇をもたらし、涼風が熱風にかわる
- ・伊豆高原の魅力減少に伴い観光事業の衰退、土地価格の下落、人口の減少、各商業活動への悪影響等が危惧される

ハ) 景観への影響

伊豆高原の殆どの場所から望まれる伊雄山周辺の森林が失われ、人工物で覆われることになりイメージダウンとなることは必至

ニ) 事業終了後の影響

耐用年数を過ぎたソーラーパネルは、放置されゴミの山となることも危惧される

3. まとめ

この地域は平成24年に実施したゆったり・湯めまちウォーク「新緑の橇道を辿って伊雄山へ!!!」のコースの殆どが計画エリアに内包され、多くの市民が参加し、大変好評を得たコースである。案内人会はそのコースを失うことになる。

伊豆高原地域から遠望する伊雄山から矢筈山、遠笠山、そして大室山にかけての山脈は、現状で実施されている、殆どの案内コースから望まれ、案内活動には不可欠の背景となっている。万が一、この事業が実施された場合、案内人会活動への悪影響は計り知れず、看過出来ない。

伊東自然歴史案内人会は、上記の理由により

メガソーラー建設工事中止を要望する。